

男女エペ沖縄合宿についての週刊誌報道に関するお詫びとご報告（第2報）

平素は格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

この度の週刊誌で報道されました男女エペ沖縄合宿につきましては、多くの方々にご心配と不信感を抱かせる事態を招きましたことを深くお詫び申し上げます。当協会にて確認できている事実関係及び今後の対応につきまして、以下にてご報告致します。

【対象】

男女エペ沖縄合宿（令和4年6月18日～25日実施）

【報告要旨】

- ・週刊誌報道後、参加していた全選手・コーチ・スタッフ並びに強化本部長へのヒアリングを実施。
- ・ヒアリングの結果、合宿運用の業務フローや実態において一部不適切な点が確認されたため、当該合宿については助成金の申請を行わない。また、誤認を招きかねない行動を取った選手・スタッフについては嚴重注意を行うと共に今後、教育プログラム等を課すことも検討する。
- ・合宿でのトレーニング内容については医・科学委員会からの見地も含め、目的、時期に照らして妥当性を欠くものではないと判断しているが、公金である助成金を申請するにあたっては今後より高い透明性・妥当性を担保するべく、自由時間の過ごし方を含め、統括団体等の指導を仰ぎながら申請基準を再整備する。

【報告内容（詳細）】

・当該合宿について、週刊誌報道後ただちに参加していた全ての選手・コーチ・スタッフにヒアリングを行い、以下の事実を確認しております。

1. 合宿のスケジュール変更について

当該合宿においては合宿直前に選手に配布された内容が「正」のスケジュールであり、事前に提出されていた内容はあくまで「施設の予約」のために仮作成されたものであったこと、それが合宿行程の「施設予約状況の参考資料」として提出されたのであり、実際には内容を「大幅に変更した」わけではなかったことが判明しました。

スケジュール上で「自由時間」と記載されていた箇所についても体育館等の練習施設は予定通り確保されており、次項にもある通りトレーニングのために利用した選手がいたことも確認されています。

2. 合宿の内容について

合宿の内容そのものについては把握された以下の実態を鑑み、医・科学委員会の見地からのトレーニング内容に対する見解を含め、妥当性を欠くものではないと理解しています。

(1)当該合宿は7月15日に開幕する世界選手権に向けた調整と、ロシア・ウクライナ情勢下での1か月を超える長期遠征並びにプレッシャーがかかるアジア選手権が連続したことによる、選手の心身の

リカバリーとの両方を目的に実施されました。

(2) 朝にはフィジカルメインで強度の高いヨガをチーム全体で行っており、これが実質的な一部練習に相当するとコーチから報告を受けております。その後、午前または午後の半日に関してはフェンシングのレッスン、フットワーク並びにバドミントンなどの他競技を行うなど、二部練習に相当する練習を行っていることも確認されています。

(3) 残りの半日に関しては選手の自由時間として設定されており、ヒアリングの結果、個々人のコンディションに応じて活用されていたことを確認しています。当初、予定通りに予約した施設を利用してトレーニングを行っていた選手もいれば、ランニング等、施設を利用しない形でトレーニングを行っていた選手もいたこと、また様々な形でレストに充てていた選手もいたことが確認されています。尚、この時間に実施されたレクリエーションに係る費用はすべて選手の自費で賄われています。

(4) 選手へのヒアリングを通じ、合宿の主旨に疑問を抱く声は聞かれず、またパフォーマンス向上という目的に照らして成果を感じないという者も認められませんでした。

(5) 次世代ターゲットの選手についても、今後を担う存在としてシニア選手と一緒にトレーニングを実施するために参加しており、パフォーマンス向上ならびにチームビルディングの観点から問題となる点は認められませんでした。

3. 助成金の申請について

助成金を申請するにあたっては以下の点において適切ではないと判断し、当該合宿に関しては統括団体への助成金申請は行わないことを決定しております。

(1) 合宿計画の詳細やその変更、さらに合宿中の活動実態を強化本部が把握できていなかったこと、また把握するための業務フローが整っていなかったことについては問題があったと言わざるを得ません。もしこれらが整備されていれば、週刊誌から質問状が来た時点でより正確な情報を回答することができ、また先のご報告においてもスケジュール資料の位置づけや変更内容について正確な理解をお伝えすることができ、皆様の混乱や不信感を招く事態は避けることができたと考えます。

(2) 加えて、当該合宿に家族を帯同し、家族分の旅費については自己負担であったものの、宿泊に際して同じ部屋を使用していたということが判明したことです。この手配は交通手段の手配とは別に現地にて当日実施されたため、強化本部が事前に情報を把握することができませんでした。この事実は、たとえ事後に自己負担として費用精算されたとしても、公金である助成金の申請を予定している合宿の運用としては疑念を招きかねない不適切なものであったと言わざるを得ません。

(3) 週刊誌報道にあった男性選手・女性スタッフの行動について、疑念を招きうるものであったことは客観的事実として認められること。両選手には日本代表選手・スタッフとしての自覚が不足していたとして厳重注意を行い、今後、教育プログラム等を課すことも検討致します。また監督者であるコーチ・強化本部長にも、再発防止の徹底を厳しく指示しております。

【今後の対応について】

・上記の通り、合宿に係る業務プロセスの改善には早急に着手するべく、協会内で検討を開始しております。合宿の計画時点でより詳細な予定の報告を求めることはもちろん、合宿途中で変更が起こりうることまで想定し、合宿中にも逐次実態が報告・把握できるシステムの構築を検討しております。この運用により、事後の助成金申請において、その趣旨に沿う内容であったかどうかの判断における透明性を担保するとともに、過去の承認事例に囚われることなく、より高い助成金申請基準を協会内部で設定致します。

・選手・スタッフ・コーチには、日本代表として求められる高いレベルの健全性を改めて厳しく指導し、透明性の高い強化活動を行うことで皆様のご理解・ご支援を頂けるよう、意識の向上を求めます。

・これらに留まらず、公金である助成金の申請にあたり、透明性・妥当性の疑念を招かないために取りうる対策を今後も統括団体並びに関係各所のアドバイスを仰ぎながら協議し、適切な運用を徹底します。

この場をお借りし、高い健全性の求められる日本代表チームの活動において、多大なる不信を招く事態となったことを深くお詫び申し上げます。今後、再発防止並びに信頼回復に向けて協会全体として真摯に取り組んでまいります。